

除草剤耐性グリホサート及びアセット乳酸合成酵素阻害剤耐性トウモロコシの隔離ほ場における生物多様性影響評価試験
(栽培実験期間:平成19年度)

確認項目		確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	開花前に花粉稔性等調査する個体は袋がけを実施、それ以外は除雄による交雑防止措置を行った事を確認しました。
	○モニタリング措置について	本栽培実験では必要ありません。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	実験種子を容器に入れ他の種子と分別した管理、ビニール袋での分別した運搬、播種後防鳥網の設置による拡散防止を行った事を確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	作業に使用した機械等を、実験区画外搬出の際に洗浄等を行った事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について	収穫物は、調査終了後19年9月27日までに隔離ほ場栽培実験区画内に鋤込みして不活化処理を行った事を確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	収穫物以外の植物体を隔離ほ場内で堆肥化して不活化処理している事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	後作としてヘアーベッチを平成19年10月31日に播種し20年5月12日に隔離ほ場内栽培実験区画内に鋤込みし不活化処理を行った事を確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	平成19年4月27日に公表された事を確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会が平成19年5月21日に開催された事を確認しました。情報提供のフォローアップについても適切に対応していた事を確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催等、本実験の経過について12件の情報がホームページに掲載された事を確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	本栽培実験での栽培、処理の終了について、平成20年5月14日にホームページに掲載された事を確認しました。実験結果の概要については、21年3月3日のホームページに掲載された事を確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者、情報提供主任者を指名して管理体制を整備している事を確認しました。

畜産草地研究所 隔離ほ場



平成19年7月20日撮影
図1

除雄した個体
(畜草研提供)



平成19年8月10日撮影
図2

畜産草地研究所 隔離ほ場内
植物体の堆肥化



平成19年12月14日撮影
図3